

## 令和5年第4回教育委員会会議（定例会）録

### 1 日時

令和5年2月22日（水）16時00分

### 2 場所

教育委員会会議室

### 3 出席者

教育長：石橋正信

委員：町孝、原志津子、武部愛子、西村早苗、徳成晃隆

事務局：福田教育次長、深堀理事

中尾総務部長、峯川職員部長、江崎教育環境部長、木下指導部長

早川総務課長、宮川生涯学習課長、立山服務指導課長、竹内教職員第2課長、吉安通学区域課長、石橋学校企画課長、井上小学校教育課長、金子経済観光文化局美術館事業管理課長

### 4 会議事項

#### (1) 付議事項

付議案第6号 通学区域の設定について

付議案第7号 福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）について

付議案第8号 教職員の人事について

付議案第9号 附属機関委員の人事について

#### (2) 臨時代理報告事項

臨時代理報告第2号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

臨時代理報告第3号 教職員の人事について

#### (3) 協議・報告事項

協議・報告ア 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

### 5 開会

教育長開会を宣告 16時00分

付議案第8号及び第9号並びに臨時代理報告第3号は人事に関する案件のため、臨時代理報告第2号は議会の議決を経るべき議案に関する案件のため、議決により非公開とされた。

## 6 付議事項

### ▼付議案第6号 通学区域の設定について

吉安課長より説明

《原案どおり可決》

[質疑等]

(町委員)

- ここに至るまで大変だったと思う。いろいろなご意見があったと思うが、途中の経緯はともかく、一言で言えばうまく落ち着いたということによいか。

(吉安課長)

- 今回の通学区域の件については、アンケートも行い広く意見をうかがったところであるが、ご指摘のとおり、喧々譁々2分の1でどっちかという状況にはならず、この内容が妥当であるということで、比較的スムーズにまとまっている。

### ▼付議案第7号 福岡市子ども読書活動推進計画（第4次）について

井上課長より説明

《原案どおり可決》

[質疑等]

(町委員)

- パブリックコメントについて、全部こまかくまとめられ、きれいに整理されており読みやすかった。その中で、学校司書に関するものが同じような方から何回も来ており気になったが、それ以外については、今回まとめていただいた内容で良いと思う。1点質問だが、学校司書について、福岡県の中でも自治体によっては全学校に配置しているところもあるぞといったような意見があったが、学校司書は現在何名いるのか。

(井上課長)

- 学校司書については、現在43名いる。小中学校に、小規模校を除いて配置しているが、1人当たり4、5校担当している。

(徳成委員)

- 関心のある方々から建設的な意見も含めて多く寄せていただいた。2点尋ねるが、1点目は、3項目の変更内容について、3つ目のストーリーテリングとビブリオバトルという手法が、国際的に流行の兆しがあり、国内でも取り組んでいる小学校も出てきているが、福岡市内の実態としてはどうなのか。市教委として把握や推奨を行っているのか。2点目は、学校司書について、福岡市の周辺部では1校1名の司書配置が進んでいるのは事実だ。福岡市は学校数が相当数にのぼるので、全校配置は今後の課題ではある。読書ボランティアや地域の方、PTAの方々が読み聞かせや図書修理等、学校の活動にご協力いただいているが、その辺りの状況と今後の司書の配置について何か見解があればお尋ねしたい。

(井上課長)

- 1点目のビブリオバトルについては、教育委員会から学校にお示ししている状況にはない。学校においても、こういった取り組みをしているという情報も今のところ把握していない。2点目の学校司書については、学校によっては地域の読書ボランティアの方をお願いしている部分はあるが、コロナ禍において、学校に入っただけの方を制限していた部分もあるので、以前と比べると減ってきているように感じている。学校司書については、今回の策定の中で、特別支援学校の学校図書館の充実も記して、令和5年度については、まずは特別支援学校への配置増を検討しているところである。今後についても状況を踏まえながら適切な配置について検討していきたいと考えている。

▼付議案第8号 教職員の人事について

立山課長より説明

《原案どおり可決》

▼付議案第9号 附属機関委員の人事について

金子課長より説明

《原案どおり可決》

7 臨時代理報告事項

▼臨時代理報告第2号 議会の議決を経るべき議案に関することについて

宮川課長より説明

▼臨時代理報告第3号 教職員の人事について

竹内課長より説明

8 協議・報告事項

▼協議・報告ア 令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について

石橋課長より説明

[質疑等]

(町委員)

- 新型コロナウイルスの影響で、全種目は実施できなかったということで、小学校については54、55パーセント、中学校については80パーセント程度の抽出になっているが、資料2ページにあるとおり、私は平成26年頃から、この問題については常に、学力の向上よりも福岡の場合は体力向上が落ちているので、これを何とかしなければということはずっと申し上げてきたと思う。学校の体育に力を入れていただきたいとお願ひしてきたところである。全国平均にはかなり近づいて

きたと思う。私が教育委員になりたての頃はかなり全国平均と乖離があったので、これはいかなるものかということで、毎年のようにご指摘申し上げてきたところである。現場の先生方も集まっているいろいろなことをやっていただいたのでかなり良くなったと思うが、その中でも気になったのは、資料3ページ、体育の授業以外での取組みということで、小学校は下回っているが中学校は上回っているのは、クラブ活動があるから上回っているということか。また、学校の向上の目標設定について、強制的に目標を立てる必要はないとは思いますが、目標設定を行った学校の割合が全国平均を下回っているのは少し気になるところで、ありのままにすれば良いということなのか、目標設定の指導についての教育委員会としての関りは何かやっているのか。また、中学校の女子生徒が、体育が嫌いだという割合が増えているのが気になるところであるが、これは今年に始まったことではなくずっとそうだと思うが、体を動かすことが楽しいということを教えてあげることが大事だと思う。お尋ねだが、資料6ページに体育科学習実技指導員の派遣を25校に実施したとあるが、まだ答えは出ていないとは思いますが、指導員を派遣した学校が今後、例えば授業のやり方、体の動かし方の指導について、結果が出ているのであればうまくいくようになったのか、今からであればそういったことに期待するというのか、その辺りについて教えていただきたい。

(石橋課長)

- まず、資料3ページについて、中学校の方が体育授業以外での取組みが進んでいる。中学校の体育の学習は、体育プラス行事等でクラスマッチなどを積極的に行っており、結果として出ていると思う。小学校については、新型コロナウイルスの影響で、休み時間等で工夫していたが、この2年間は消極的になっているように感じている。また、資料4ページの目標設定については、毎年「体力向上推進プラン」を全小中学校から提出いただいているので、各学校は目標設定している。しかしながら、このアンケートでは、プランを出していることと繋がっていないところもあり、目標設定しているということを学校に指導していきたい。また、中2女子については、福岡市だけでなく福岡県においても同じような傾向にあり、昔からだとは思いますが、恥ずかしがる、全力でできないという、発達特性もあると思うが、ご指摘のとおり、面白い体育をしなければならないと思っており、今年度は体力向上推進委員会で考え方を少し変えて、教材づくりをしようということで、楽しい体育を考えていくことに取り組んでいただいております、引き続き工夫していきたい。また、小学校の授業支援ということで、25校に指導員の派遣を、2年ぶりに実施している。これについては、研修を受けたインストラクターが、教員が教えるのが苦手な器械運動、陸上競技といったものを中心に行っていたので、3月までに25校に派遣するので、学校にアンケート等を取りながら検証していきたいと考えている。

(原委員)

- 中学校女子の体育が嫌いだという割合が多いことについては、私も気になっていて、女性はあまり体を動かさないところもあるし、大人になってからも基本的な体力については、日常的な運動習慣が影響していると思うので、体力向上推進委員会をせっかく立ち上げているのであれば、競技や技術もあると思うが、日常的なストレッチ、ヨガといった、楽しめるような、一生運動を続けられるような機会、情報をお伝えいただけるとありがたいと思う。

(石橋課長)

- 発信についても頑張らなければならないと考えているが、体力向上推進委員会では、今回一番気にしたのが準備運動で、中学校では、「イチ、ニ、イチ、ニ」と号令をかけて走ることやラジオ体操をしておりマンネリ化しているそういった体操も大事だが、もっと子どもたちの興味関心を引くような体操を考えようということで、2、3分の「福岡シティ体操」というものを作っている最中である。そういったものを楽しく発信していきたいと考えている。

(武部委員)

- 全国の平均、福岡県の平均、福岡市の平均ということでいろいろと時間等記載されているが、基本的に、この年齢のときにはどのくらいの運動時間が、健康のために必要なかという基準はどこに記載されているのか。

(石橋課長)

- 体育の学習指導要領においても、何分運動すればよいといった基準は明記されていない。子どもたちが、自分の体力、健康に興味関心をもって、自分で目標設定していくことが体育の基本と考えており、その設定をしっかりとさせなければならないと考えている。

(武部委員)

- WHOにおいては推奨の時間、運動量が示されているが、その辺りは関係がないのかと思った。

(石橋課長)

- データ的には60分以上というのが肯定的であるので、1週間で最低60分以上は運動してほしいというところはある。

(徳成委員)

- 先ほどの準備運動等の見直しには賛成である。制服、校則も同じだが、今までの当たり前をどう見直していくのか、社会環境は変わっていったわけだから、体育の領域においてもそこは大いに見直しを図るべきだ。資料2ページのグラフについて、平成25年、26年辺りがどれも最下降状態から、体力測定そのものに慣れが出てきてぐっと上がり、コロナ禍の影響で落ちている。小学校の5年生はもととかなり高いベースから少し上がって落ちてきているとか、中学校2年生はかなり低いところから上がってきているなど、いろいろな読み取り方ができるが、コロナが解消した後、先ほどの体操もだが、改善されていく中でこれがどう上が

っていくのかを楽しみにしたい。お尋ねだが、学校の目標設定について、学校自体が忘れていているということだが、そもそもどのような数値目標などを立てているのか、傾向などあればお示しいただきたい。

(石橋課長)

- 学校は、基本的に授業改善の目標を立てる。どのような授業をするか、授業改善、工夫することなどそれぞれの学校がプランを立てて、このような授業をしようということが上がってくる。もう一つは、授業以外の活動をどの程度するのかというプランも上がってくる。ただし、数値的に体力をここまで伸ばそうということを我々も要求していない。一番大事なものは、子どもの興味関心を高めるための取組みだと考えており、各学校には、そのようなプランを作成してもらっている。

(徳成委員)

- いずれにしても、目標に向かって子どもたちがどう取り組み易くしていくのかだ。そういった環境作りについて校長、教員が目標を立てるべきであり、今後の見直し等図っていただきたい。

(西村委員)

- 「体力向上推進プラン」について、非常に期待している。子どもたちが運動のこういったところに興味をもつのかということも研究の一つだと思う。笑顔が出るような、自分から楽しんでもらえるような企画になれば良いと思う。

(武部委員)

- 何年か前の議会において、あまりにも驚いたので記憶しているが、中学生の運動の時間数がいきなり多くなっていると、これは無理をさせているのではないかという質問があった。そういう風にみられるのかと驚いたことがあった。

(石橋教育長)

- 関連して、今の体育の授業の時数はどうなっているのか。

(石橋課長)

- 中学校は週3時間、年間105時間である。

(武部委員)

- 私が記憶しているのは、部活についてで、そんなに無理して運動部に入れさせているのかといった質問であった。

(木下部長)

- 私も記憶しているが、勝利を目指すよりも、楽しくレクリエーションのようなことをする部活動の方が良いといったことをある議員が訴えていて、運動そのものを無理にさせるのではなく、楽しく遊ばせるのが良いといった意見であった。私としては、学校の中でしっかり子どもたちに運動の楽しさを味わわせていきたいと思うし、自分の目標に向かってしっかりと運動し、達成感、成就感を味わわせることが大事だと強く思っている。

(町委員)

- 要望だが、福岡にはプロのチームがこれだけたくさんあるので、そういった中でスポーツ科学部など専門の学校が、日本では筑波と福大にしかないと言われるような立派な学部もあるし、そういったところの学生に頼むなど、良い先生方もたくさんいるので、子どもたちの前でさせるのも効果があると思うが、実は一番効果があるのは、先生方に運動が苦手という方が結構いらっしゃるので、そういった方々をプロの視点でこういう風に教えたらよいといったことをアドバイスいただくようなことに取り組めば、子どもたちは先生をみているから、意外と早く、うまくいくのではないかと思っている。予算の関係があるので一気にはいかないと思うが、ご検討いただければと思う。

## 9 閉会

教育長閉会を宣告 17時07分